

令和7年度 学校評価

宮崎県立都城農業高等学校

【学校経営方針に対する総合的な意見】

- 学校経営方針に基づき、着実にスクールミッションを達成している。
- 地域に根ざした学校として、地域に多くの技術を習得した人材を輩出している。
- 今後も新たな取組への挑戦と良き伝統の継続を期待したい。
- 魅力ある学科の強みを、一人でも多くの人に知ってもらえるように頑張ってもらいたい。

基本方針(所属の目標)	年間指導目標 (期待される役割)	自己評価	学校関係者評価	評価と今後に向けて
【教務部】 自ら学ぼうとする意欲と態度を身につけさせ、新しい情報や技術・知識に対応し、有効に活用できる人材の育成を図る。	成績不振を理由とする原級留置を無くし、生徒全員の進級・卒業を目指す。	3.0	3.4	<u>学力向上と成果</u> 学年ごとに成績の向上が認められる。今後も、各担任・教科担当による粘り強い指導を通じ、スモールステップでの成功体験を提供することで、さらなる学力向上と学習習慣の定着を推進してもらいたい。 <u>出席状況の改善(課題)</u> 欠席・遅刻者数の多さが課題としてあるように感じた。生活習慣の改善に向けた指導体制を強化し、欠席・遅刻者の削減できるように取り組んでもらいたい。 <u>ICT活用の現状と課題</u> 授業展開におけるICT活用が定着している。一方で、手書き機会の減少による記述力低下や思考の定着への影響が懸念される。
	基礎学力向上や専門力向上を目指す教育を推進する。			
	都城農業高校生としての態度づくりを推進する。			
【生徒総合支援部】 「自他敬愛・知徳耕道・見聞知行」の精神に基づき、行事等への主体的な参画を通じた規範意識や自己指導能力、知徳体の調和の育成を図る。また、教育相談体制の充実により個々の悩みに寄り添い、全ての生徒が自尊感情を高め輝ける学校生活を側面から支援していく。	生徒が企画・運営する活動を増やし、問題点の抽出と改善策の立案、実行を行わせる。	3.0	3.2	<u>生徒会活動・行事・部活動</u> 生徒会役員を中心に新たな試みに挑戦し、行事の企画運営を成功させるなど生徒会活動積極的な取り組みが認められる。また、県大会での上位進出や上位大会への出場を果たす部が増加し、活気ある活動が展開されている。 <u>交通安全(ヘルメット着用)</u> 自転車ヘルメットの着用率の低さが課題としてあるように感じた。着用推進に向け、生徒会による活動を主体に、今後はこの動きをさらに加速させ、家庭とも連携した指導を図り、着用率の向上につなげて欲しい。 <u>情報モラル</u> SNSトラブルの防止に向け、情報リテラシーの育成と健全な利用の定着を進めてもらいたい。
	特別指導・生活改善指導カード・携帯電話指導カード指導対象者の減少と指導の見直しを行う。			
	生徒が安心安全に学校生活を送ることができるように支援を行う。			
【進路指導部】 本校の生徒が確かで堅実な人生設計を描き、自己の適性に応じて能力を十分に発揮できる職業人として生きる力をつけさせ、経済的な自立を図れるよう的確な進路指導を行う。また、生徒の多様性に応じた進路指導を推進する。	進路決定100%	3.0	3.6	<u>進路支援の体制・意識啓発</u> 各学科・教科の連携による面接や小論文の個別指導が徹底されており、着実な進路実現が図られている。段階的なガイダンスによる目標の明確化も、生徒の意識高揚に大きく寄与しており、高く評価できる。 <u>地域貢献</u> 地元企業への高い就職率を維持しており、地域産業の担い手として多大なる貢献を果たしている。特に農業土木分野をはじめとする公務員試験において、極めて高い合格実績を残した点は特筆に値する。 <u>ICT活用</u> 「ハンディ進路指導室」の運用による求人票のデジタル閲覧や集計の効率化は、ICTを有効活用した優れた進路支援体制である。生徒の利便性向上に直結しており、評価に値する。
	面接・小論文の徹底			
	早期の希望進路決定			
【農務部】 農業に関する施策を基調とした、高い専門性に立脚した特色ある教育活動を展開しながら、「農業教育基幹校」として宮崎の農業と関連産業を支える人材を育成する。	地域社会と連携した農業教育の推進	3.0	3.4	<u>専門学習の成果と高度資格の取得</u> 多くの資格の取得や農業クラブ九州大会出場など、専門学習における活躍が認められる。学科関連の進路実現も一定の割合で進んでおり、専門性を活かした教育実践の成果の高まりを今後期待したい。 <u>外部連携の展開と技術的課題</u> 外部講師や企業見学による実践的学習は評価できるが、大学連携の継続性やスマート農業機器の活用方法に課題が見受けられる。次年度は、これら課題の解決に向けた積極的な取組を望む。 <u>デュアルシステムの質の向上</u> デュアルシステムを通じ、校内では得られない専門技術の習得や学習の深化が図られている。次年度は事前指導をさらに徹底し、地域から信頼される実習体制の確立と責任ある行動の定着に努めることを望む。
	キャリア教育の推進			
	農業クラブ活動の充実と資格取得の推進			
	DXを活用したスマート農業教育の実践、「GAP」、「HACCP」教育の充実			

※ 評価は、4段階評価(4(大変良い)>3>2>1(努力・改善が必要))